

「音の最先端」をオールカラーでお届け!

平成28年9月1日発行 第6巻第3号通巻23号 ISSN 2186-7216

季刊・ネットオーディオ

# Net Audio

付録

## 録り下ろしハイレゾ音源

CD-R+ダウンロードコード

vol. **23**  
2016 AUTUMN



チューリップ FLAC DSD

グレース・マーヤ DSD 11.2MHz

北川 潔 WALKIN' AHEAD PIT INN LIVE FLAC DSD

三善香里 WAV

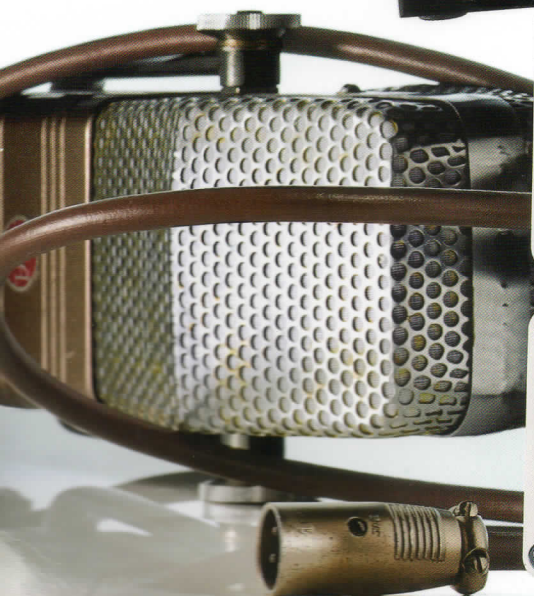
愛知室内オーケストラ DSD Stereo DSD Surround

# 再生ソフトウェア革命

リスニングの「常識」を大きく変える!

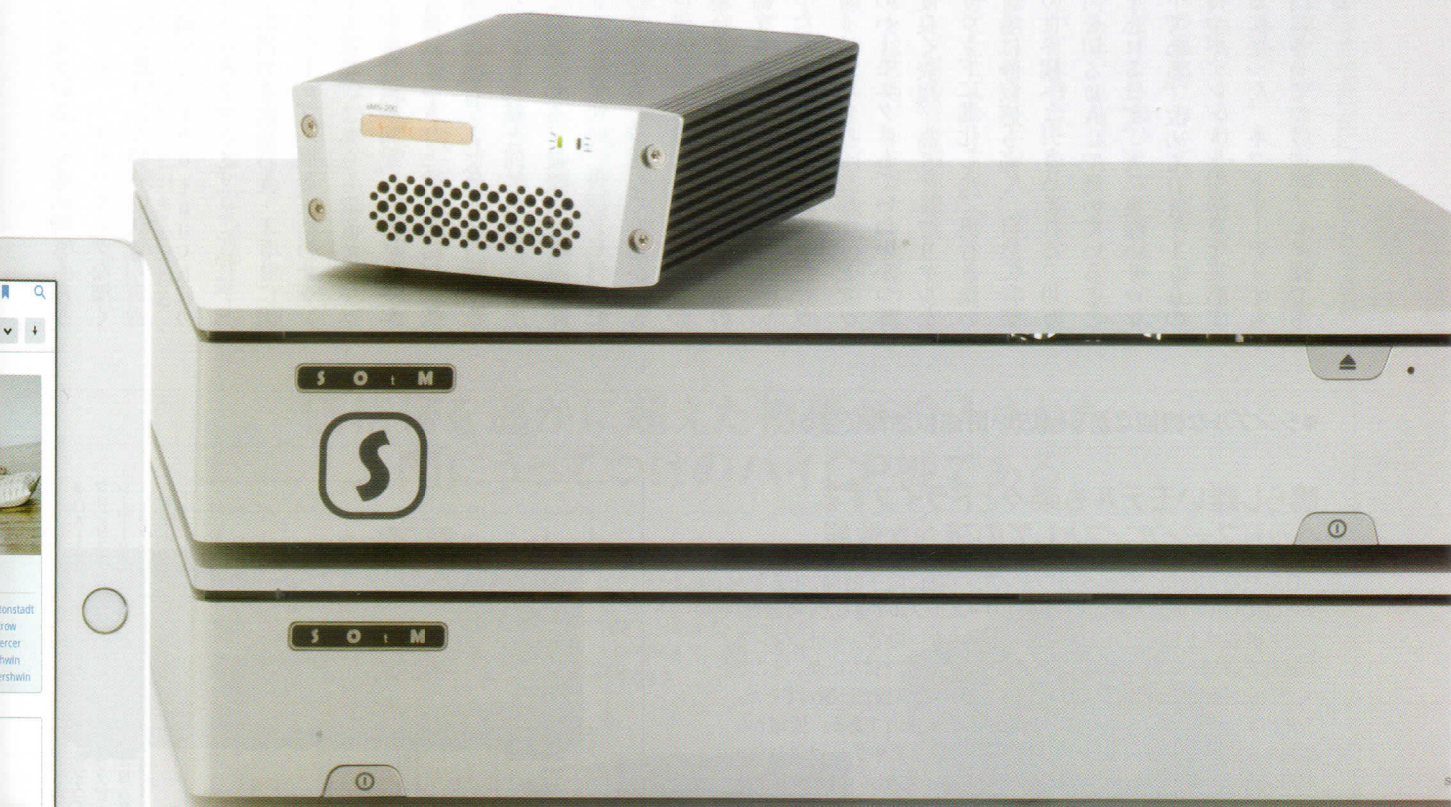
いま聴くべき

## ハイレゾ 対応機 一斉試聴





# ウェア革命



Text by  
**土方久明**  
Hisaaki Hijikata  
**逆木 一**  
Hajime Sakaki  
Photo by  
田代法生

ネットオーディオという音楽スタイルが生まれて数年、変化の著しいこの分野の「常識」を、また大きく変えてしまうような潮流が生まれてきている。それは、「再生ソフトウェア」をめぐる新たな可能性である。デジタルならではの恩恵をもたらすネットオーディオの最前線を探ってみた。

ソフトウェアの進化により  
リスニングの常識が大きく変わる

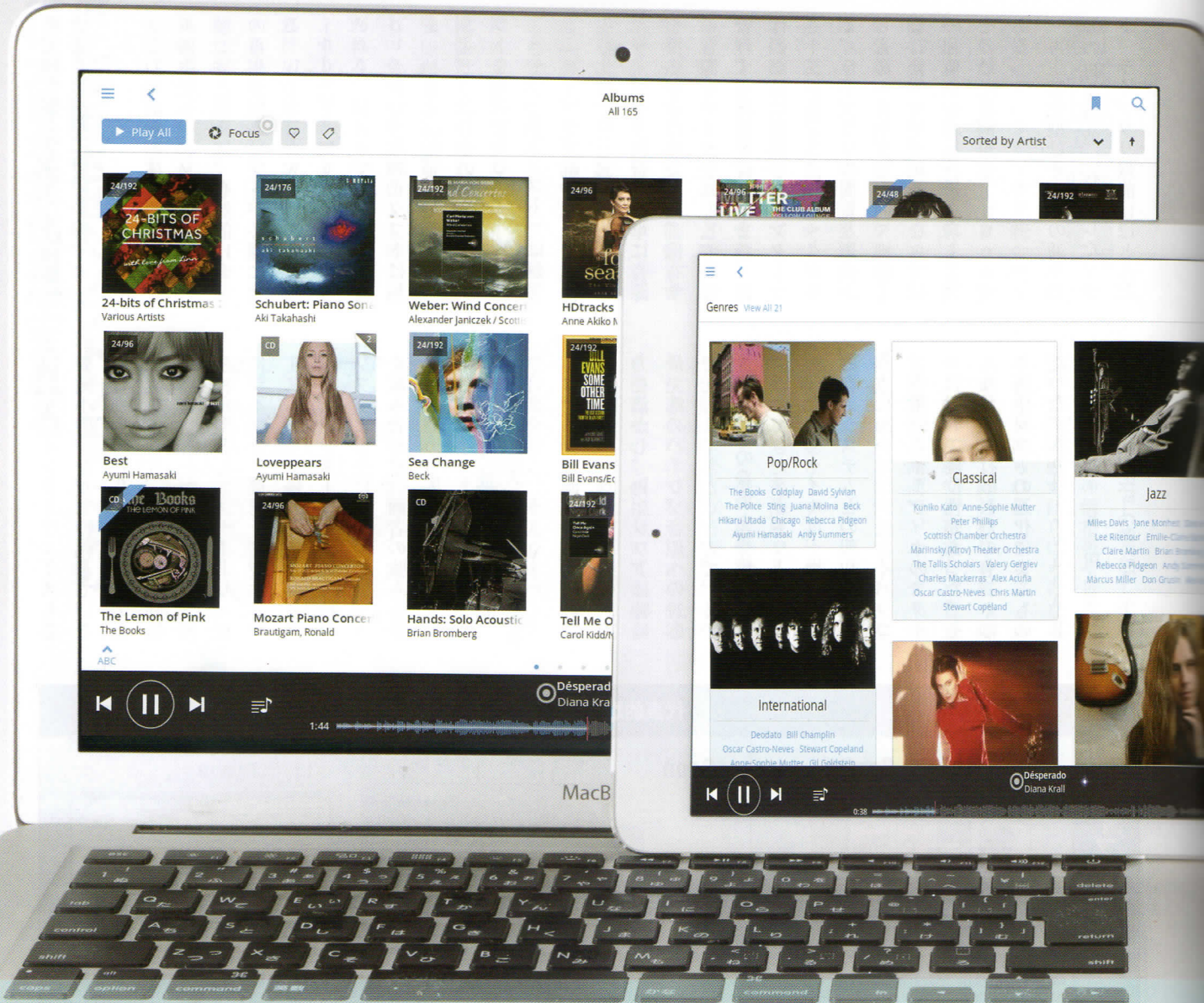
いま、再生ソフトウェアの進化が著しい。もはや音楽を再生するもの、ライブラリを整理するものという枠を大きく超え、リスニングスタイルの常識を根底から覆すような革新的な展開が始まってきている。

これまでの再生ソフトウェアといえは、あくまでパソコンの使用を前提としてUSBオーディオを楽しむ場合に使用するもので、パソコンにインストールしてさまざまな設定を施し、DACに対してデジタル音源を出力する機能を持ったものでしかなかった。もちろん、この使い方の簡便さによって、ネットオーディオの可能性を広げる原動力ともなったのは確かだ。

そんな再生ソフトウェアは、パソコンと外部DACというような限定された環境を大きく超え、オーディオシステム全体の中心となる発展を遂げている。ひとつは、パソコン上で起動する再生ソフトウェアをネットワーク上で簡単に操作できるようになったこと、そしてもうひとつが、再生ソフトウェアの役割そのものが、「オープンなもの」になってきたことである。



# 再生ソフト



再生ソフトウェアがオーディオシステムの核となる

「オープンなもの」というのはどういうことなのか？ それは再生ソフトウェアそのものが、NASやオーディオ機器に組み込まれ始めているということだ。例えば、ネットワークオーディオに使用するNAS。NASにはサーバーソフトという概念があるが、これが再生ソフトウェアに置き換えられると、USB DACと同様の使い勝手で行けることはもちろん、仮にシステムを共通化した際もユーザーは同じ使い勝手で、同じライブラリをそのまま使用することができるようになる。ライブラリを共通化しながら使い勝手も変わらないということは、ユーザーは方式ではなく「音」だけで本当に欲しい機材を判断できるということを意味している。

これまでも本誌ではUSBオーディオとネットワークオーディオの共通化をうたってきた。もはや再生ソフトウェアの定義は、パソコンで音楽を楽しむためのものという枠を抜け出している。本特集では、そんな再生ソフトウェアのいまをお届けしたい。(編集部)



SotM

ミュージックサーバー

# sMS-1000SQ Windows Edition

USB出力モデル ¥500,000

デジタル出力モデル ¥550,000

アナログ出力モデル ¥550,000

専用電源ユニット

## sPS-1000

¥170,000(予備)

ネットワークプレーヤー

## sMS-200

¥70,000(予備)

### ▶ Specifications

[sMS-1000SQ Windows Edition]

●OS:Windows Server 2012 R2 or Windows 8.1 ●利用可能なソフトウェア:Roon, TIDAL, Qubuz, Foobar2000, JRiver Media Centerほか ●USB出力:オーディオグレードUSB3.0ポート、USBオーディオクラス2.0をサポート(384kHz/32bit PCM、DSDまで対応) ●サイズ:360W×68H×240Dmm ●質量:4kg

[sPS-1000]

●AC電源電圧:220Vac ~ 230Vac / 110Vac ~ 115Vac ●DC電源出力:ハイ出力→18/19/20/21Vdcから選択(最大4A) ミドル出力→9/10/11/12Vdcから選択(最大2A) ロー出力→5/5.5/6/7Vdcから選択可能(最大1A) ●サイズ:360W×68H×245Dmm

[sMS-200]

●OS:Linux ●対応ネットワーク:RoonReady, DLNAレンドラー、MPD、LMS、SqueezeLite ●対応フォーマット:最大384kHz/32bitPCM、DSD2.8/5.6/11.2MHz ●USB端子:オーディオグレードUSBポート×1、USB2.0×2 ●サイズ:106W×48H×152Dmm ●質量:1.5kg ●取り扱い:(株)ブライトン

Roon Ready

Roon Server

Text by  
土方久明  
Hisaki Hijikata



## オーディオ製品として魅力ある デザインを備えたサーバー

世界初のRoon Server対応機、SotMのsMS1000SQ Windows Editionである。本機はOSにWindows Server 2012、もしくはWindows 8.1が搭載可能なミュージックサーバー。Roon Serverとして唯一ストレージが内蔵されており、外づけUSBメモリ/ドライブレコーダーやネットワーク接続するNASなどに頼ることなく、これ1台で運用が可能である。

もはやパソコンと音源を格納、配信するサーバーは内部ディメンションが共通になりつつあり、その垣根はなくなると言っても良い。ただしオーディオ製品として

魅力のあるデザインは必要だ。本機は直線基調の優れたデザインを持ち、一見パソコンベースの製品に見えない。ハイエンドオーディオ製品と並べても全く遜色がないのだ。

本体内には、OSインストール用の2.5インチSSDとデータ格納用SSD/HDDドライブが内蔵される。また、ネットワーク上のNASやUSB端子に接続した外づけUSBメモリ内の音源も再生可能である。別売のパワーサプライ、sPS1000を使用すると、sMS1000SQ WE本体の電源供給のほか、USBボード部にもクリーンな電源を供給できる。

## ServerReadyが スムーズに接続できる

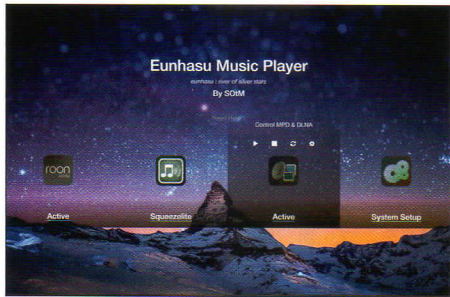
今回はネットワークトランスポートに、同社Roon Ready対応機、sMS200を使用。USB DACはマイテック・デジタルのBrooklyn DACと組み合わせる。合わせてsPS1000も使用した。iPadにインストールしたR

oon RemoteからはスムーズにRoon Serverとして認識された。実はRoon対応機を名乗るためには、ハードウェアをRoonの本部に送り、動作検証チェックで合格しなければならぬという。それゆえ、Roon対応機と謳うものはネットワーク上での認識など安定した動作が保証されているのだ。

ダイアナ・クラール「ウォールフラワー」から、「スーパースター」を聴く。イントロから音場の空気感が明瞭に伝わってくる、この部分である程度オーディオ的な能力が分かってしまうのだが、解像度が高く優秀な音質だ。続いてダイアナ・クラールが歌い出す。センタに現れた彼女のヴォーカルは実態感豊かでリアルである。等身大の表現とはこのようなことを指すのだろう。トランスポートとしての性能は高い。sPS1000からクリーンな電源供給を受けているメリットかもしれないが、聴感上のSN比も優秀。この音質を備えているのであれば、Roon Server専用機として本機の価値は十分にある。

## 解像度が高く優秀な音質 実在感豊かでリアルな表現を描く

RoonReady対応のsMS-200の設定画面。接続するUSB DACを選択し、RoonReadyを「Active」にすることで再生が可能になる





## 特別レポート

# RoonServerをいち早く世に問うた 気鋭のブランドSotM(ソム)とは？

全世界のオーディオファンの熱い注目を集めている再生ソフトウェア・Roon。  
そのRoonをサーバー内に組み込み、完全なパソコンレス環境を実現するRoonServerがついに登場した。  
先鋭的USB DACやDDCなどを開発し、世界的にも最先端スペックの製品を送り出してきたSotMが世に問う、  
最新RoonServerの音をいち早く確認してみた。

SotM

## sMS-1000SQ Windows Edition

ミュージックサーバー  
USB出力モデル ¥500,000  
デジタル出力モデル ¥550,000  
アナログ出力モデル ¥550,000  
8月発売予定

SotM

## sMS-200

ネットワークトランスポート  
¥70,000 (予価)  
9月発売予定



SotM

## sPS-1000

専用電源ユニット  
¥170,000 (予価)  
発売未定

Text by  
土方久明  
Hisaki Hijikata  
Photo by  
田代法生

ハイスベックマシンを搭載した  
世界初のRoonServer

今年5月にドイツ・ミュンヘンで開催されたMunich HI GHEND。そこでRoonServerとして注目を浴びたのが、ここでご紹介する、SotM(ソム)のsMS1000SQ Windows Editionならびに専用電源ユニットsPS1000である。

SotMはフルバランス回路を持つUSB DAC、dAC1200HDや、USB DDCのdX-USB HD、オーディオグレードのPCホストカードなど、USBオーディオ関連の開発には定評があったブランドだ。世界的な潮流となりつつあるRoonだが、パソコンレスの環境を求める場合、Core機能を持つRoonServerの導入が必要であった。しかしライブラリ管理や音声処理を行うRoonServerはハイスベックなマシンを要求するため、各メーカーは製品化に苦勞していたのが現状である。そこに本機が登場したというわけだ。

MS1000SQ Windows Editionの概要を確認してみよう。本機はその名前の通りOSにWindows



# 聞こえまでの差が出るのかと驚く 聴感上のS/Nに優れ、サーバーで

## ●ブランドの概要

### デジタル技術の最先端を柔軟に取り入れ 独自の存在感を放つ新鋭ブランド

SoTMとは、「Soul of the music」の頭文字をとったブランド名。その名の通り最先端のテクノロジーを活用して音楽の“真髄”を伝えることをモットーとしたブランドである。特にデジタルオーディオに関する取り組みは早く、USB DACやUSB DDC、ノイズフィルターなど小回りの効く製品に定評があり、日本でも先鋭的なオーディオファンを中心に根強い人気を集めていた。

今年のMunich HIGH ENDで、RoonServerを搭載したミュージックサーバーを発表したことは、世界中のオーディオファンから驚きを持って迎えられた。OSやネットワークをオーディオ機器として活用するノウハウを積み重ねてきた同社だからこそ可能になったハイスペックなサーバー。同社のRoonReady対応機、sMS-200との相性も良く、これからのネットオーディオの台風の目となるブランドであることは間違いない。



LANケーブルやアイソレーター、小型ラックなど、関連アクセサリも多数開発している



ミュンヘンハイエンドショウでのRoonServerのデモンストレーションの様子



sMS-1000SQ Windows Editionの背面。こちらはUSB出力を搭載したモデル。設定時にはディスプレイをつないでパソコンとして使用することもできる



専用電源ユニットsPS-1000の背面。接続する機材に合わせて出力を設定する(sMS-1000SQ Windows Editionは19Vdc)

RoonReady対応のネットワークトランスポートsMS-200の背面。オーディオ専用のUSB出力端子と、外付けUSBドライブなどを接続するUSB2.0ポートを持つ



## Specifications

【sMS-1000SQ Windows Edition】●OS: Windows Server 2012 R2 or Windows 8.1●利用可能なソフトウェア: Roon, TIDAL, QOBUZ, FooBar2000, JRiver Media Center●標準ストレージ: 32G SSD for Windows Server 2012 R2、250G SSD for Windows 8.1 OS●USB出力: オーディオグレードUSB3.0ポート、USBオーディオクラス2.0をサポート(384kHz/32bitPCM、DSDまで対応)●入力電圧: +19Vdc●サイズ: 360W×68H×240Dmm●質量: 4kg  
【sPS-1000】●AC電源電圧: 220Vac ~ 230Vac / 110Vac ~ 115Vac●DC電源出力: ハイレベル出力→18/19/20/21Vdcから選択(最大4A) ミドルレベル出力→9/10/11/12Vdcから選択(最大2A) ローレベル出力→5/5.5/6/7Vdcから選択(最大1A)●サイズ: 360W×68H×245Dmm  
【sMS-200】●OS: Linux●対応ネットワーク: RoonReady、DLNAレンドラー、MPD、LMS、Squeezelite●対応フォーマット: 最大384kHz/32bit PCM、DSD2.8/5.6/11.2MHz●USB端子: オーディオグレードUSBポート×1、USB2.0×2●サイズ: 106W×48H×152Dmm●質量: 1.5kg●取り扱い: (株)ブライトーン

sを搭載したコンピュータベースのミュージックサーバー。筐体はアルミ製で剛性感があり、オーディオ製品らしいデザイン。現時点で国内導入モデルがどのようなスペックになるのか決定していないので、ここからはあくまでも本国仕様をベースに解説したいが、CPUやメモリ、搭載するソフトウェアはカスタマイズ可能。USB、デジタル、アナログ、3タイプの出力を持つモデルが用意されている。OSについては、Windows Server 2012、もしくはWindows 8.1が選択可能だ。

標準構成としてOSインストール用の2.5インチSSDとデータ格納用SSD/HDDドライブを搭載。内蔵ストレージ、ネットワーク上のNAS、外付けUSBメモリなどに格納されたデータの再生が可能だが、メーカーでは本体ストレージからの再生を推奨している。Windows OSがインストールされていることもあり、Roon以外にもfoobar2000やJRiver Media Centerなどの再生ソフトウェアの使用も可能。ミュージックサーバーとして汎用性が高い。また、OS上のサーバ

スとプロセス数を減らすことで、ノイズとジッターを劇的に減らすソフトウェア、AUDIOPHILE OPTIMIZERがプリインストール(Windows Server 12のみ)されていることも特筆しておきたい。

## RoonReadyとServerを組み合わせて聴く

別売りの電源ユニットsPS-1000についても説明しておこう。本機は3系統の独立した電源供給が可能なりニアパワースタバイドである。3系統はそれぞれ電圧を変えてクリーンな電源供給が可能である。sMS-1000SQ WEと組み合わせる場合、メイン電源に供給を行うのと同時に、USBオーディオポートにも電源供給が可能になる。

今回はRoonServerとして本機の音質を確認する。トランスポートには同社のRoonReady対応機、sMS-200を使用。USB DACには、マイテック・デジタルのBrooklyn DACを用意。sMS-200の概要も簡単に説明しておく、Roonを始め、MPD、DLNA、Squeezeliteなど複数

の通信プロトコルに対応した、小型のネットワークトランスポートで、海外ではローコストながら良好な音質で人気製品となっている。

クラシックのレファレンスとして最近よく聴いている、UNAMASレーベルの『シューベルト・死と乙女』(192kHz/24bitFLAC)を確認。音が出てすぐに本機が良好な音質を備えていることに気づいた。実は今回、RoonServer機能を持たせた、自前のMacBookProを持ち込み、それと比較を行ったのだが、一聴してsMS-1000SQ WE+sPS-1000は、聴感上のSN比に優れ、情報量にもかなりの違いを感じた。何より弦楽器の粒立ちがまったく違い、サーバー部分でここまでの差が出るのかと驚いた。

現在のところオーディオ向けを謳うストレージ内蔵のRoonServerは本機だけである。パソコンレス、かつ高音質にRoonを運用できるし、そして何よりも音が良い。sMS-1000SQ WEを導入する意味は大いにありと評したい。